

2026 年度 (令和 8 年度) 学校評価自己評価表

新市中央中学校区	校番 67	福山市立網引小学校
最終更新日		2026 年 (令和 8 年) 4 月 1 日

I 福山市

めざす姿	すべての子どもたちが、自分自身の成長を実感できる学校教育の実現
------	---------------------------------

II 中学校区

<p>前年度学校運営協議会 (学校関係者評価) の主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校や地域等で、気持ちの良い挨拶ができています。また、教職員が、生徒たちの取組を「自分事」としてとらえることができています。 メディアコントロールの取組では、生徒が自分で考え、「やってみよう」という意識づくりの大切さが伝わってきた。引き続き、自分で気づき、行動する力を高めるように指導・サポートしてほしい。 学力向上へ向けての取組を継続してほしい。 	<p>児童生徒の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> 学力調査等の結果から、基礎的・基本的な内容が定着してきている。また、家庭及び地域の方の力を結集し、メディアコントロールに取り組んでおり、生活習慣の改善が見られ始めている。 校区で育てたい資質・能力を意識しながら各活動に取り組むことで、校区全体の肯定的評価は、チャレンジ&チェンジする力 (88.1%) 自己理解力 (87.0%) 自己表現力 (83.4%) といずれも 80% を超えており、4 月と 12 月比では、12 月比はいずれの項目も上昇している。 	<p>育成する資質・能力</p> <p>めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)</p> <p>中学校区として統一した取組等</p>	<p>チャレンジ&チェンジする力、自己理解力、自己表現力</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の目標達成に向けた計画を立て、取り組む児童生徒。そして、その取組を定期的に振り返り、改善策を考える児童生徒。 自分の将来の夢や目標を持つ児童生徒。 自分の思いや考えを相手に分かりやすく説明する児童生徒。 児童生徒や教職員、地元事業者、地域の方と育成したい資質・能力を共有しながら、出前授業、探究的・体験的な学習など、様々に取り組んでいく。
--	---	---	---

III 自校

<p>学校教育目標</p> <p>心豊かに 自ら学ぶこどもの育成</p>
<p>現状</p> <p><児童></p> <ul style="list-style-type: none"> 授業改善に取り組み、「学びが面白い」児童88%。 R7 全国学テ(6年)では、国語+1、算数+6、理科+6(市比)ポイントであった。一定の学力はついてきているが、依然として思考・判断・表現の力に課題が残った。 福山市学力調査(4・5年)4月(4年・国52.3、算61.5 5年・国51.7、算54.2)12月(4年・国61.2、算60.0 5年・国64.5、算63.3)だった。改善策にもとづいた取り組みを行い、4月当初と比べ平均値が上がった。国語では、「書くこと」の観点に力が付いている。算数では、「図形」「数と計算」の観点について力が付いている。しかし、目標値に到達している児童の割合が少ない。 メディアコントロールデイ等の取組で、スマホ・ゲームを3時間以上使用している児童は13%に減少したが、家庭学習時間や家庭でのルールづくり等の課題がある。 地域とともに学ぶコミュニティースクールの仕組みが構築され、地域に愛着を持っている児童が育成されてきている。 <p><授業></p> <ul style="list-style-type: none"> 学力調査の結果を踏まえ、算数科を中心に「できた」という現実と達成感のある授業設計を行い、40%未満の児童が減少した。 各教科で、課題解決型の授業を行い、教職員で互いの授業を見合って授業改善を進めた。 教材研究や子ども理解を大切に、授業研究を行い、全教職員が自分の授業に活かした。 地域人材を活用した授業を各学年が行い、地域との結びつきがさらに強まった。

育成する力 資質・能力	チャレンジ&チェンジする力	自己理解力	自己表現力	
めざす子ども像	1・2年	苦手なことでも最後まであきらめずにチャレンジしている。	自分の好きなことややってみたいことをもち、自分のよさを理解している。	自分の思いをもち、相手に伝えている。
	3・4年	失敗を恐れずチャレンジし、失敗してもそれをもとに次どうすればよいか考えている。	自分の好きなことややってみたいことをもち、自分のよさと課題を理解している。	自分の思いや考えを多様な表現方法で堂々と表現している。
	5・6年	リーダー性を身につけ、課題を解決するためにチャレンジし、改善しようとしている。	自分のよさや課題を理解し、よさを伸ばし、課題を克服しようとしている。	自分の思いや考えを根拠を示しながら工夫して表現している。
研究	テーマ	自分の考えをもち、学び合う授業づくり ～考え、判断し、表現する場面の充実を通して～		
	内容等	<ul style="list-style-type: none"> 単元や本時の課題を解決するために思考する授業づくり 他者との対話を通して、学び方を獲得する授業づくり 自分の思いや考えを積極的に表現する授業づくり 		
めざす授業の姿	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的・基本的な内容が確かな力として身につく授業 学ぶことが楽しいと実感できる授業 他者との対話を通して、自己の学びを深める授業 安心して学ぶことのできる環境の整った授業 			

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

年目	中期経営目標	重点分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)				
						□指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況	◎短期(中期)経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価
1	こどもが学びに向かう力を育成する。	★新規	主体的に課題を解決するこどもを育成する。	① つける力を意識した授業づくりを行う。(研究) ② メディアをコントロールする力を身につけるために生活習慣を見直す機会を設ける。(健安)	① 「学びが面白い」90%以上(児童)「授業づくりポートフォリオを活用して授業改善を行った」100%(教職員)「単元末テスト40%未満」5%未満 ② 「スマホ・ゲーム3時間以上10%未満」体力テスト県・全国以上の項目昨年度以上(16分の7)								
1	こどもが学び続ける力を育成する。	★新規	教職員がこども理解に基づいた学習集団をつくる。	① 学び合う教室を目指す、表現力を高める取組を行う。(研究) ② CS授業を充実させ、地域とのつながりを強める。(生指)	① 「自分の考えを工夫して伝えている」85%以上(児童) ② 「地域の方とかがわることが好き」85%以上(児童)「こどもと地域がつながる授業を行った」90%以上(教職員)								
1	なりたい自分に向かう力を育成する。	新規	自分のよさを伸ばそうとするこどもを育成する。	① 特別活動を充実させる。(生指) ② 自分らしい「わくわく学習」を推奨、評価する。(研究)	① 「自分は周りの人に認められている」90%以上(児童)「自分の成長を実感している」85%以上(児童) ② 「自分らしいわくわく学習ができた」85%以上(児童)								
2	教職員が生き生きと働ける環境整備をする。	見直し	教職員がやりがいと充実感をもって教育活動を行う。	① 学年会の時間を設け、悩みを相談できる環境をつくる。(企画) ② 研究ミニ部会、三部会を充実させ、声をかけあう風土を醸成する。(企画)	① 「仕事にやりがいをもっている」90%以上(教職員) ② 「協働してくれる仲間がいる」90%以上(教職員)								

[プロセス評価]

[達成評価の評価基準]

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。